HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「楡蔭」4号
Description	Vol.1 No.4
Issue Date	1967-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66846
Type	journal
File Information	yuin4.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学附属図書館報

橋 詮

The Hokkaido University Library Bulletin　Vol. 1, No. 4.　July 1967

姉崎館長のこと

関東大震災で蔵書76万冊を灰にした東大附属図書館の復興のしごとがなみなみならぬものであったことは，同大学50年史や，帝国大学大観に縷々記されている。復旧のなった図書館に内外の信望をあつめて，名館長とうたわれたのが嘲風姉崎正治先生であった。この豪壮な図書館には，学生時代徹頭徹尾ご厄介になった。その一般閲覧室には，常連学生みたいのがいて，学部，学科のわくをこえて知己をうることもできた。また屋上のビュッフェが開かれたのも私の在学中のことだったか，その一杯五銭のコーヒーの香もなつかしい。しかし，同館についての忘れられぬ想い出は，姉崎館長とこの白面学生とので会いの一幕である。館長は，私の記憶によれば，まことに足まめに館内を巡回されたようだ。白いズックのゴム底のお靴にも，読書の静粛な環境をみだすまいとの細かいお心づかいがうかがわれた。閲覧室では，学生証とひきかえに厚手の真鍮製の席札が渡され，これは一般閲覧室では，相対する閲覧座席を隔てる遮蔽の所定の位置にさげておくのだが，館長は，無雑作に机上に抛うりおかれたり，裏返しとなっている席札にも目をやられ注意をうながされた。館内の温度計，湿度計の前にしばし佇まれる館長もしばしばお見かけした。

それは夏休みも近い暑い午後のことであった。暑さのためか，すでに帰省した学生もあるわけか，学生閲覧者もまばらであった。私は人気少ないのを幸いに，隣の椅子をも占領して，赤子の揺籃よろしく向い合せ，靴を脱ぎ，まことに行儀の悪い恰好で読書をしていた。まさかと思ったのに館長の巡回である。とりつくろいはすでに間に合わなかった。いささか酷しい面もちで「ちょっと来なさい」といわれ，重いドアの外で，恐縮しきっている私に「ほんとの読書には，心，体，意の三つの構えが必要である」というようなことを，醇々と説かれ，さいごに軽く肩を叩き「注意したまえよ」といわれた。放免はされたものの，しばし，漸きにたえかねて，その日はそこそこに出館したのであった。

姉崎館長のこのお叱りを，いまでも冥加に思っている。そのことあってから，先生のご講義などうけたこともない私だが，学内のどこかで，お会いしても，私は心をこめて一礼することになった。もちろん，館長は，私を覚えておられたわけでもないし，どこに所属する学生かも気にとめてはおられなかったと思う。さて，この同じ年の冬のことである。暖房のよくきいた図書館に，閉館のサイレンが高鳴る間ぎわまで頑張って，帰途につこうと，中央階段の上りはなまできた。そこには，閲覧者専用の伝言板がある。ふと目をやると「嘲風兄！お先に失礼樗牛」という一行がある。ある意味で，姉崎館長に失礼この上もない。僭称樗牛なる伝言の下手人高山君？は，おそらくこの館の常連の一人で，なにごとかで，私同様，あるいは，もっと

きつくお叱りをうけた学生ででもあろう。私はこの「お先に失礼」に妙にこだわりながら，それでいて，この下手人の機智にもいささか感心しながら，あれや，これやの想像をたくましくして，師走の夜に，外套の襟をたてて，家路をいそいだのであった。

教育学部教授　鈴　木　朝　英

◆ 会　議

第22回 図書館委員会

<と　き　昭和42年5月18日（木）>
<ところ　附属図書館会議室>

① 本館より昭和43年度歳出概算要求書（国立学校）について説明し，特に新設要求の教養学習分館と医学系図書分館について，要求書作成経過を説明し委員会の了解を得た。
② 昭和41年度決算報告について当初計画に対し図書費が約100万円支出増となったこと，本館総経費に対する賃金の比率が高いことについて，本館の事情を説明し了解を得た。
③ 昭和42年度予算編成については前年度同様の積算基準により編成し，特に図書費は前年度より，100万円ふやしたこと，学内総合目録作成計画として最近5カ年内（昭和36年～40年）の必要経費を併せ提出したことを説明し了承を得た。
④ 第20回図書館委員会にて了承を得た方針に基き“学内出版物等の保存に関する規程”（案）を計り了承を得た。

第23回 図書館委員会

<と　き　昭和42年6月28日（水）>
<ところ　附属図書館会議室>

附属図書館北方資料室管理運営内規（案）について，その主旨と提案理由を説明了承をえた。続いて報告事項に移り第14次全国国立大学図書館長会議における本年度指定図書費の増額，館長会議の組織強化等につき報告があった。

図書事務連絡会議

<と　き　昭和42年7月10日（月）>
<ところ　附属図書館会議室>

斉木事務部長より第14次全国国立大学図書館長会議について報告があったのち学外への複写依頼とその清算の方法について討議し次の様にきまった。今後公費により学内部局が学外へ複写を依頼しょうとするときは本館へ申し込むこととし，本館が学外への依頼の窓口となり，現品の受領とその支払は本館が行なう。従って，それに伴う学内清算は経費の移算（月別）により処理することとなる。

北海道大学が発行する出版物等の保存に関する規程

（趣　旨）

第1条　北海道大学が発行する出版物等（以下「学内出版物」という。）の保存に関しては，この規程の定めるところによる。

（学内出版物の種類）

第2条　学内出版物とは，国費をもって発行されるもののうち，次の各号に掲げるもの及び北海道大学学生団体に関する規程（昭和28年海大達第2号）第9条第1項に規定する新聞，雑誌その他のもの（以下「学生団体出版物」という。）とする。

1　北海道大学例規集，北海道大学一覧，学生便覧その他の行政的なもの
2　記念論文集，紀要，研究年報その他の学術的なもの
3　年史，沿革史，略史その他の歴史資料的なもの

4　前各号に掲げるもののほか，北海道大学付属図書館長（以下「館長」という。）が，指定するもの

（送　付）

第 3 条　学内出版物を発行した者は，その一部を館長に送付しなければならない。ただし，学生団体出版物については，学生部長が館長に送付するものとする。

（保　存）

第 4 条　館長は，前条の規定により送付を受けた学内出版物を館内に別置し，保存するものとする。

（貸出しの制限）

第 5 条　学内出版物は，原則として館外貸出しを行なわないものとする。

（館長への委任）

第 6 条　この規程に定めるもののほか，この規程の施行に関し必要な事項は，館長が別に定める。

附　　則

この規程は，昭和 42 年 6 月 14 日から施行する。

北海道大学附属図書館北方資料室管理運営内規

第 1 条　本学附属図書館に，北方資料室（以下「資料室」という。）を置き，その管理は，附属図書館長（以下「館長」という。）が行なう。

第 2 条　資料室は，北方文化に関する資料を収集，保管し，学内外の利用に供することを目的とする。

第 3 条　資料室の運営に資するため，北方資料室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2　運営委員会は，次に掲げる委員をもって組織する。

1　館　長

2　文学部長の推せんする者　　4　名

3　附属図書館の事務部長，整理課長，閲覧課長

3　前項第 2 号の委員の任期は，2 年とし，館長が委嘱する。

4　運営委員会に，委員長を置き，館長をもってあてる。

第 4 条　この内規に定めるもののほか，利用等の細則及び運営委員会の運営に関し，必要な事項については，運営委員会の議を経て，館長が別に定める。

附　　則

この内規は，昭和 42 年 6 月 28 日から施行する。

◆学内図書館だより

＜ 文　学　部 ＞

近世文学関係資料展示会　於　附属図書館展示室　期間　6 月 17・18 日

第 32 回日本近世文学会春季大会のため文学部国文科主催で上記の展示会が催された。展示資料は 85 部。展示書目録あり。

＜ 経 済 学 部 ＞

定期刊行物目録　和・中国語雑誌篇 / 資　料　篇　**No. 1**

この目録は昭和 41 年 7 月末現在，経済学部図書室に所蔵する約 1,200 種類に及ぶ和雑誌・中国語雑誌及び資料を収録し号単位の所蔵を明記した。雑誌類と資料を分離排列したので両者こみの誌名索引を付し，又資料については利用の便をはかるため発行機関別索引を設けた。

和文　B 5 版　107 頁　オフセット印刷　1967 年 5 月刊

定期刊行物目録 欧 文 篇 No. 1

昭和42年1月末現在経済学部に所蔵する約260種類の欧文雑誌類を収録し，No. 単位の所蔵まで記載した。露文雑誌は別排列とし，年鑑・年報約70種を加えてある。

欧文 B5版 30頁 オフセット印刷 1967年5月刊

< 附属図書館 >

北海道大学図書館〔本館〕収 書 通 報 No. 2 (1966. 11-1967. 3)

B5版 191頁 オフセット印刷 1967年6月刊

北海道地図の変遷展示会 於 付属図書館展示室 期間6月12～17日

本館には北海道の古今の地図1,000余種が所蔵されているが，ここでは北海道地図の変遷を輪郭の特徴からとらえて次の11枚を展示した。表示の年は原図の成立年を示す。

1. 松前蝦夷人嶋絵図 寛永年間 (1630年代) 写図 63×80 cm
2. 元禄郷帳附図 元禄13 (1700) 写図 64×110 cm
3. 和漢三才図会掲載図 正徳2 (1712) 写図 80×63 cm
4. 蝦夷輿地之全図 天明5 (1785) 写図 94×127 cm
5. 蝦夷国全図～三国通覧図の内～（林子平） 天明5 (1785) 木板 原図 55×95 cm
6. 蝦夷地図（古河古松軒） 天明8 (1788) 写図 80×117 cm
7. 蝦夷・加頼多・骨奈詩利・月多六福・猟虎島写図（最上徳内） 寛政2 (1790) 写図 145×140 cm
8. 伊能忠敬蝦夷国測量図～大日本沿海実測全図の内～(伊能忠敬・間宮林蔵) 寛政12～文政4 (1800～1821) 写図 115×128 cm
9. 蝦夷地図式 2. 蝦夷及樺太（近藤重蔵） 享和2 (1802) 写図 107×77 cm
10. 蝦夷闔境輿地全図（藤田温郷） 嘉永7 (1854) 木板 原図 122×97 cm
11. 北海道国郡全図（松浦武四郎） 明治2 (1869) 木板 原図 100×90 cm

資 料 紹 介

古 今 図 書 集 成

4階参考室の百科事典類の一角に，薄緑地に白銀色の背文字を浮かしたあまりさえない装幀の101冊からなる「古今図書集成」がひっそりと並んでいる。この本は清朝の盛時に勅撰された大規模の類書（百科事典）として世界史の教科書にのる程有名で，今日でも中国（特に17世紀以前の旧中国）に関する最大かつ最良の参考図書として内外に広く利用されている。

本書の編纂は康熙帝の治世に第三王子付きの学者陳夢雷（1651生）の手で始められた。彼は王府と自分の蔵書約15,000巻をもとにして上下古今森羅万象を包含する一大類書をあもうとし，王子と帝の援助の下1701～6年にかけて6彙編32志6,000部の構成をもつ原稿を完成し「彙編」の名で上呈した。帝はこれに「古今図書集成」の名を賜い印刷準備が進められたが，やがて帝が死ぬと第四王子が即位し（雍正帝）競争相手であった王子達とその臣下は迫害されることとなった。以後この仕事は陳の手を離れ，雍正帝は蔣廷錫らに本書の補訂を命じ更に自ら序文を書いて10,000巻の定本を完成し，雍正6年（1728）銅活字による排印本64部（1セッ

ト5020冊）を印行した。今日この版の揃は世界に十数部知られるのみであるが，東京の内閣文庫には江戸時代に渡来し幕府の買上げたセットが保存されている。 清末には鉛印本（1884～7）と石印本（考証24巻を付す，1890）が作られ，民国時代になると初版本の縮写影印本（1934～6）が中華書局の手で刊行されて世の需要に答えんとしたが，孰れも高価な上に冊数が夥しく検索の不便を免れなかった。 図書館の本は，初版銅活字本（康有為旧蔵）を縮写影印した上記中華書局本 800冊，付考証8冊）に基づいて更に影印し，洋装101冊に収め中文分類索引・英文索引等を付したもので，台北の文星書店から1964年発行された。 テキストとしての信頼性と実用の便利を併せ考慮すると，目下の所これが一番優れている。

暦象彙編（乾象・歳功・暦法・庶徴4典）以下方輿（坤輿・職方・山川・辺裔4典）明倫（皇極～人事・閨媛8典）博物（芸術～草木4典）理学（経籍～字学4典）経済（選挙～考工8典）の6彙編32典の構成の下，6117部の項目がたてられ全字数は1億4,400万字に達するという。一例として誌名に因んで「榆」の項（第67冊525～32頁，博物彙編草木典第269巻）をみると，榆図に始まり詩経・礼記・原雅・春秋緯・斉民要術・本草綱目の引用からなる彙考以下，榆を敍べた詩文をのせる芸文・選句，榆の故事・逸話等をあつめた記事・雑録に至る迄，古来の中国人の榆に関する知識はほぼここに網羅されているといってよい。本書は千数百年の伝統をもつ中国類書の発達の頂点をなし，我国の明治時代に編纂された「古事類苑」などにも大きな影響を及ぼした。本書の利用価値の大きさは，イギリスの L. Giles の Index (1911)，日本の文部省の分類目録 (1912)， 滝沢俊亮の分類索引 (1933) と外国人さえその活用に努め3種も索引を作ったことにもよく窺われよう。

同じ世紀にフランスで出来たかの Encyclopédie (1751～72，第3版が文学部にある）が合理主義の精神の輝やかしい記念碑であったのに比べると，図書集成は帝王の絶大な権威の下における古き遺産の集大成にすぎなかった。しかし前者が既に思想・学術史の研究対象でしかないのに反し，後者はその伝統に忠実な周到さと厖大な量故に今日なお有用な参考書として研究者の活用を待っているのである。

文学部助教授　池　田　温

四　季

工学部図書掛（室）

中央図書室

図書館の設立が云ふ迄もなく共同研究を目的とする以上は個人の我儘や自由は多少共犠牲にせねばならぬ事は当然にして一面，この拘束こそ他人への奉仕であり，共同生活の一員としての意義ある義務であるは今更喋々を要せぬ次第である。(原文のまま)

この一文は，昭和2年6月9日に実施された，工学部図書取扱内規の一節である。

当時，工学部図書室の設立にあたり，工学部図書整備委員会が設けられ，次の2案が審議された。

1. 建物の東西に図書室を置き，機械工学，電気工学，応用力学関係講座の所要図書は東図書室の所属とし，また，土木工学，鉱山工学，物理学，化学関係講座の所要図書は西図書室の所属として，それぞれ利用させる。

2. 東西図書室を何れか一カ所にまとめて，煉瓦書庫を増築し，学部図書の集中を図る。

この結果，第2案が採用され，西図書室が工学部中央図書室として現在に至っている。

ただし，この学部図書の集中案がどの程度実施され，また，どのように利用されたかについては，昭和28年以前の資料が少なく適確に纒め得ないが，図書館行政の考えかたとして現代にも立派に通用するものである。

学 科 図 書 室

各学科図書室の設立日時については，つまびらかでないが，学科図書室の整備について，第1回の会議が昭和36年4月6日に行なわれた。以後，学科図書室の拡充に務め，下記の表の如き形態を有するようになった。

なお，この学科図書室の存続については，科学の急速な進展に伴い，各学科の研究領域に共通研究分野が生じている現在，今後の課題として充分な検討を要する問題である。

建物および内部設備一覧表

	面積m²	閲覧座席数	開架図書数 単	雑	計	機械器具	掛員	備考
中央図書室	577.5	80	5,280	0	5,280	クイック①，リコピー②，ミニコピープリンター③，タイプ欧⑦，タイプ和①	14	専
事務室	56.1						10	専
閲覧室	224.4	80	5,280	0	5,280		4	専
書庫	297.0							
学科図書室	935.0	208	8,901	9,343	18,244		28	
土木	63.0	10	205	569	774	マイクロカメラ①	1	専
建築	59.0	15	1,803	1,555	3,358	クイック①，タイプ欧①	1	兼・専
衛生	63.0	14	1	411	412	タイプ欧①，タイプ和①	1	兼・専
鉱山	63.0	22	510	1,744	2,254	タイプ欧①	1	兼・専
冶金	63.0	10	870	1,180	2,050	クイック①，リコピー①，タイプ欧和②	1	専
機械	63.0	20	122	510	632	クイック①，タイプ和①	1	専
精密	56.0	10	107	274	381	リコピー①，タイプ欧①，タイプ和①	1	専
電気	63.0	14	610	1,500	2,110	タイプ欧②，タイプ和①	1	兼・専
電子	84.0	20	165	410	575	輪転機①，タイプ欧①，タイプ和①	1	専
応化							5	(兼務)
合成	136.0	24	1,638	355	1,993	タイプ欧①	1	専
応物	63.0	10	465	0	465		1	専
基礎原子核	63.0	10	607	153	760	タイプ欧①	1	研究室(兼務)
原子炉工学							1	(兼務)
原子炉材料							1	(兼務)
理学1							1	(兼務)
理学2	旧 33.0 新 31.5	旧 16 新 4	1,614	682	2,296	タイプ欧①	1	旧 実験室(単) 新 助手室(雑) (兼務)
工数							1	(兼務)
工業分析 $\frac{1}{2}$							2	(兼務)
工業力学 $\frac{2}{1}$							2	(兼務)
金研	31.5	9	184	0	184	リコピー①，タイプ欧①	1	事務室・会議室・図書室・(兼務)
図学							1	(兼務)
合計	1,512.5	288	14,181	9,343	23,524		42	

兼＝会議室と兼用図書室　専＝専従　兼務＝図・事務と兼務の意

◆ お知らせ

国立学校図書専門職員採用試験

昭和42年度の国家公務員採用試験としての国立学校図書専門職員採用試験は，下記により実施される。

試験の種類		上　級（甲種）	上　級（乙種）	中　級
受験資格		① 男女を問わない ② 昭9. 4. 2～昭21. 4. 1生れの者（学歴を問わない） ③ 昭40. 3以降の大学卒又は昭43. 3卒見込みの者（年齢を問わない）	① 左に同じ ② 昭13. 4. 2～昭21. 4. 1生れの者（学歴を問わない） ③ 左に同じ	① 左に同じ ② 昭15. 4. 2～昭23. 4. 1生れの者（学歴を問わない。 ③ 昭42. 3以降の短大もしくは高専卒又は昭43. 3卒見込みの者（年齢を問わない）
試験種目		① 教養試験（択一式） ② 総合試験（記述式） ③ 専門試験（択一及記述式） ④ 人物試験 ⑤ 自体検査	① 左に同じ ② なし ③ 左に同じ ④ 左に同じ ⑤ 左に同じ	① 左に同じ ② なし ③ 左に同じ（択一式） ④ 左に同じ ⑤ 左に同じ
申込受付期間		42. 8. 5～42. 9. 20	左に同じ	左に同じ
試験日	第一次	42. 10. 21～22	左に同じ	42. 10. 22
	第二次	42. 12. 7	左に同じ	左に同じ
合格者発表日		42. 12. 23	左に同じ	左に同じ

備考　1. 詳細は42. 8. 5の官報に掲載される。
　　2. 受験案内等が必要な方は，人事院北海道事務局（札幌市大通7丁目　電話（24）1248）に照会のこと。

大学図書館職員講習会

昭和42年度も昨年度に引続き国公私立大学図書館の中堅職員を対象として，その資質の向上をはかるため全国3地区で開催される予定である。本年度の講習会の対象事項は「奉仕活動の諸問題にいつて」である。なお，詳細については，文部省大学学術局情報図書館課より追って通知がある。

開催期日　10月（4日間の予定）
開催場所　仙台，東京，京都

世界理工学図書・雑誌展

日　時　昭和42年9月18日（月）～20日（水）
会　場　正面玄関ロービー

◆ 人事往来

新図書館委員

松永義夫　理学部教授

昇　任

星賀　隆　北見工業大学附属図書館閲覧掛長（附属図書館整理課受入掛教養部図書室併任）

配　置　換

遠藤喜之　事務局経理部主計課総務掛（附属図書館整理課総務掛）
浜崎丈吉　医学部附属病院管理課図書掛（農学部図書掛）
五十嵐千江子　附属図書館閲覧課運用掛（農学部図書掛）
南山勝美　附属図書館整理課総務掛（工学部鉱山工学科）
村上明夫　附属図書館整理課受入掛教養部図書室併任（文学部図書掛）
村田郁子　農学部図書掛（附属図書館閲覧課運用掛）
野村　勉　事務局庶務部庶務課文書広報掛（附属図書館整理課総務掛）
関根正宏　文学部図書掛（附属図書館閲覧課運用掛）
和田章憲　附属図書館閲覧課運用掛（工学部図書掛）
輪木安雄　附属図書館整理課受入掛（理学部図書掛）
山内正市　附属図書館整理課総務掛（附属病院業務課医療社会事業掛）
柳田　実　理学部図書掛（附属図書館整理課受入掛）

新規採用

春名克彦　農学部図書掛
諏訪田義美　工学部図書掛

退　職

奥田和子　教育学部図書掛

── あとがき ──

今年の夏は数年ぶりの暑さにみまわれて，我々が久しく忘れていた暑さにあてられがちであります。

この暑さの中にも拘らず原稿を依頼した方々のご好意で，今号も順調に発行出来るはこびになりました。厚くお礼申し上げます。

次号以降も益々充実した円滑な発行が出来るよう利用者，図書館員各位の一層の援助，協力をお願いいたします。又この館報が，図書館と利用者をつなぐパイプとなり，図書館活動の質的発展の刺戟になればと我々編集委員一同念願いたしております。

北海道大学附属図書館報　「楡蔭」　Vol. 1, No. 4　(通巻4号)
1967年7月30日 発行　発行人　斉木一郎
発行所　北海道大学附属図書館　札幌市北8条西5丁目　電話代表 71-2111 (2964)
印刷所　文栄堂印刷所　札幌市北3条東7丁目　電話 22-0851